

平成25年度事業報告書

H26. 5. 21



公益財団法人

日本ユースリーダー協会

平成25年度事業計画

I. ユースリーダー育成事業

【1】アジア研修プログラム

- ① 「グローバル・エデュケーション・ツアー（GET）」の実施
- ② 「日中青年植林プロジェクト（日中緑化交流基金助成事業）」の推進

【2】来日研修の受入れ

- ① アジア地域からの来日研修受入の検討

【3】ユースリーダー研修(国内)

- ① 「異業種交流研修会」継続実施 + 「若手研修会」の新設
- ② 「アジアの会」(大阪支部)の開催
- ③ 「親子体験学習プログラム(新江ノ島水族館)」の開催

II. ユースリーダー支援事業

【1】アジア・ユース・チャレンジ支援

【2】アジア・ユース・チャレンジ支援サイトの作成・運営

【3】若者応援サポーター・トレーニングプログラムの開発

III. ネットワーク・社会啓発事業

【1】「第5回若者力大賞」の実施

【2】「AJAFA-21」との交流および「ECM東京大会開催」の準備

【3】ユースリーダーによる交流活動

【4】社会啓発のための広報活動

IV. 協会運営活動

【1】会議運営(理事会・評議員会・運営幹事会の開催)

【2】会員交流(会長サロン)・会員拡大

【3】事務局運営全般

以上

平成25年度事業結果報告

I. ユースリーダー育成事業

【1】アジア研修プログラム

①「飛び出せ若者プロジェクト」

GET (GLOBAL EDUCATION TOUR)

- ◆ 日本の若者の内向き志向が心配されています。そこで、日本の若者を外へ飛び出させようという趣旨で、GET(Global Education Tour)プログラムを今年も、春と夏の2回にわたり実施いたしました。



(1)「GET(ベトナム研修ツアー)」実施 (H25.8.23-29)

今回は、高校生・大学生混在の19名が参加。事前研修会を8/10に開催し、学生たちは5名ずつのグループに分かれて、3つのミッション：

- ①友達作り
- ②現地小学生への授業(日本を伝える)
- ③ホイアン市の観光PRの製作、という課題を与えられる。

そして8/23から1週間の日程でベトナム研修ツアーを実施。グループごとに行く前から課題に取り組み、その中でも小学生への授業に、工夫を凝らして臨んだ。

(右写真)日本の四季を教えるグループ。

春のさくらや雛祭り、冬は雪だるま・・・

雪はもちろん四季を知らない子供たちは驚きだ。

ツアーでは、ほかにホームステイや同世代交流も行われた。

帰国後の9/21、報告会が行われ、協会役員や教師、保護者の方々に前に、それぞれグループごとに課題の発表を行い、緊張の中にも、全員、行く前とは見違えるような、自信に満ちた表情にあふれていました。



<事前研修会>



<修了証を井上理事長から授与>

(2)「GET(ベトナム研修ツアー)」実施 (H26.3.28-4.3)

今年度第2回目、通算で第4回目の実施となる「GET」を、ベトナム・ダナンで3/28~4/3の1週間実施しました。

大学生9名、高校生14名(内訳:男性6名・女性17名)の23名が参加。とりわけ女子高生の多いメンバー構成となりました。

今回も3/15に事前研修会を行い、3つのミッションが課題として与えられました。グループによっては出国前に、数回にわたってミーティングを重ねるなど、十分に準備を重ねてベトナムに向かいました。

現地での研修プログラムでは同世代交流やホームステイの体験、ダナンの五行山の見学などを行って、いよいよ5日目は、地元の小学生に日本を伝える授業を実施。今回もどのグループも、子供たちに日本の素晴らしさをたっぷりと伝えることができました。

帰国後の4/26に報告会を開催。
 サンクスカードを最も多くもらったメンバーの発表。
 小学生授業でのNo. 1グループ(小学生のアンケートで順位づけ)を表彰。さらに、ホイアンPRの製作発表を参加者の投票によって順位づけし、No. 1グループを表彰するなど、頑張って取り組んだ成果を、お互いに讃えあって終了しました。



<ダナン・五行山>



②中国植林プロジェクト (H24~25年通年実施)

◆2006年から参加している中国での日中青年植林活動。(日中緑化交流基金の助成)
 今年度は1カ所増えて4か所で植林を行いました。

- ① 「日中青年内モンゴル砂漠化防止モデル林プロジェクト」
 (内モンゴル・ダラト旗)
 ☛ 苗木・補植・・・258千本(53ha)
- ② 「日中青年内モンゴルバヤンノール市生態防護林」
 (内モンゴル・バヤンノール市)
 ☛ 苗木・補植・・・251千本(65ha)
- ③ 「日中青年安徽省安慶市造林事業」
 (安徽省安慶市)
 ☛ 苗木・補植・・・ 88千本(60ha)
- ④ 「日中青年新疆ウイグル自治区
 莫勒切河流域生態緑化プロジェクト」
 (新疆ウイグル自治区)
 ☛ 苗木・補植・・・205千本(50ha)



<内モンゴル・モデル林>

【2】来日研修 ⇒ 海外派遣研修(JICA)の受入れ

①大学生国際協カフィールド・スタディ・プログラムの実施 (JICA受託事業)

- ◆ 1984年にスタートして間もなく30年の歴史を迎えようとしている JICA 青年研修事業。今年度はJICAの方針により事業内容が変わり、従来型の来日研修の受託はありませんでした。
それに替わって、新たに日本の学生を海外(アジア圏)に送り出す研修事業がJICAで計画され、企画コンペの結果、ベトナムコース(当協会受託)とラオスコース(ICネット社受託)の2コースの実施が決定しました。

**(1)「大学生国際協カフィールド・スタディ・プログラム(ベトナムコース)」
研修実施 (H26.2.16-3.5)**

本プログラムは、独立行政法人国際協力機構(JICA)が主催し、日本の大学生に途上国での開発協力現場でフィールド調査演習を行うことを通して、グローバルな視点と、問題発見・解決能力を身に付ける事を目的に実施されました。当協会はベトナムコースの運営事務局を受託し、企画から実施までを行いました。



研修に先立ち、12/22-25までの4日間、福島県二本松のJICA訓練所において事前研修が行われ、現状の把握と、参加者それぞれのテーマ設定などが行われました。そして2/16-3/5までの18日間、ベトナム(ハノイ・フエ・ダナン)での研修に取り組みました。今回の研修テーマは、「持続可能な社会の発展」とし、国際協力プロジェクトを視察しながら、現地住民との交流を通して、フィールド調査を行いました。「プロジェクトの継続性」「コミュニティ評価」「有機野菜の市場性」「観光エコツーリズム」「女性・労働者」の5つのテーマ別にグループを分けて、インタビューを行い、その結果を農家の方々などに発表しました。



<炭焼きも体験>

帰国後の3/23-25の3日間、二本松訓練所において事後研修を行い、グループ発表を通して、今回のフィールド・スタディから得たものを一人一人が確認して修了しました。



<長い研修を終えて修了証を手にして>



【3】ユースリーダー研修(国内)

①「異業種交流研修会」定例開催

◆ 法人会員の中堅幹部クラスを対象として年3回のペースで開催している「異業種交流研修会」。今年度も6月・10月・2月の3回にわたり、斯界を代表するゲストを迎えて開催。毎回30～40名の参加を得て、講演の後は、講師を囲んでの懇親が恒例となりました。

- (1) 第16回目となる例会は**6月10日**に開催され、元グーグル日本・社長の辻野晃一郎氏を講師にお迎えして、「挑戦しないリスクとは」と題してご講演をいただきました。
- (2) つづく第17回目は**10月21日**。
イオン(株)元会長の常盤敏時氏をお招きして、「小売業の現状とイオンの改革」と題し、イオンの取り組む流通戦略についてご講演をいただきました。
- (3) そして今年度第3回目、通算第18回目の例会は、回を重ねてちょうど丸6年目の開催となりました。
2月17日、当協会常務理事の吉田勝昭氏による「日経『私の履歴書』の効用」と題してご講演をいただきました。



②「若手研修会」を新たに開催

◆ 今年度から、「異業種交流研修会」の弟版として、法人会員の若手社員(20～30代)を対象とした「若手研修会」を新たにスタートいたしました。

- (1) 第1回目の例会を**4月19日**に開催。
「国際金融」をテーマにとりあげて、大手銀行のディーリングルームや為替取引の現場を見学。
- (2) つづく第2回目は**9月11日**に開催。
今回は日本が世界に誇るアニメーション・ビジネスを学ぶとして、東京・大泉の東映アニメーション・ギャラリーを見学。
- (3) そして今年度第3回目の例会は**12月20日**。
2020年の東京オリンピック開催決定を受けて、東京都スポーツ振興局の鳥田部長にお話をお伺いしました。



③「アジアの会」(大阪支部)定例開催

◆大阪支部が2004年から続けているアジアをテーマにした異業種交流会「アジアの会」。今年度も定例開催した。

- ・第41回「アジアの会」(H25.9.4 ガーデンシティクラブ大阪)
 - ☛ 講師:近藤伸二氏(毎日新聞 副論説委員長)
「台湾の「族群」と政治的立場」
- ・第42回「アジアの会」(H25.11.28 同上)
 - ☛ 講師:向田麻衣氏(Conffret Project 代表)
「世界一貧しい国に、夢みたいな瞬間を」
- ・第43回「アジアの会」(H26.2.21 同上)
 - ☛ 講師:藤田 悟氏(毎日新聞 副論説委員長)
「フィリピンを理解する」

※④「親子体験学習プログラム」は今年度は見送りました。次年度に開催を予定。

Ⅱ. ユースリーダー支援事業

◆明日の社会のために挑戦する若者やその指導者、また海外に飛び出して活躍する若者たち……。そうしたユースリーダーを目指す若者たちへの支援活動を行いました。

(1)「一般財団法人mundef」への活動支援

音楽とアートを通じて地球規模の課題(国連採択による「ミレニアム開発目標」)に取り組んでいる一般財団法人mundef。彼らの活動に協賛をしています。

(2)「ベトアジ」の活動支援

ベトナムから日本で学んでいる留学生たちの組織「ベトアジ」の活動に支援を行いました。

(3)「忘れない3.11」イベントを後援

東北の被災地はまだ復興半ば。周りで支え合う気持ちを風化させないために、ボランティア有志が一昨年から取り組んでいる支援活動:
「忘れない3.11」(H26.3.12 パソナグループ本部)に、今年も後援いたしました。

Ⅲ. ネットワーク・社会啓発事業

【1】「第5回若者力大賞」表彰実施

- ◆今年度で第5回目を数える「若者力大賞」。今回は80名を超える多くの受賞候補者の推薦が寄せられ、その中から、5名(組)の受賞者を決定いたしました。
その栄えある表彰式が新年1月29日、東京・六本木の「ハリウッド・プラザ」で行われ、今回は、会員のみならず多くの学生にも参加を呼びかけ、約200名におよぶ出席者で会場は満席でした。
受賞者からお一人ずつコメントがあり、活動のきっかけ、途中の苦労話、そしてその手ごたえや社会への問題提起など、示唆に富んだお話で、会場は感動に包まれました。

<若者力大賞> 宇佐美 吉啓 (EXILE・パフォーマー)36歳

<ユースリーダー賞> 税所 篤快 (e-Education Project 代表)24歳
玉城ちはる (シンガーソングライター)33歳

<ユースリーダー支援賞(団体)>

チャリティサンタ (代表 清輔夏輝)
まちの保育園 (代表 松本理寿輝)

※審査委員 三村 明夫 (審査委員長・当協会会長)
西尾 進路 (当協会副会長)
山中 祥弘 (メイ・ウシヤマ学園理事長)
橋本久美子 (橋本龍太郎元首相令夫人)
蛭田 史郎 (旭化成常任相談役)

(敬称略)



(上左: 前列左から受賞者の松本さん、玉城さん、宇佐美さん、税所さん、清輔さん。
後列左から審査委員の蛭田委員、山中委員、三村委員長、西尾委員、橋本委員)
(右上: 若者力大賞受賞の宇佐美吉啓さんと三村審査委員長)

【2】「AJAFA-21」との交流活動（=ASEANとのネットワーク）……………

日本で研修を受けたASEANの卒業生たちは、帰国後それぞれの国で同窓会を組織し、お互いの交流と次に続く若者たちの育成に取り組んでいます。

当協会は、その横断的な連携組織「AJAFA-21」(ASEAN-Japan Friendship Association for the 21st Century)との交流を毎年続け、ASEAN 諸国とのネットワークづくりに取り組んでいます。

※「AJAFA-21」:カンボジア・インドネシア・ラオス・マレーシア・ミャンマー・フィリピン・タイ・ベトナムの8ヶ国で構成。(シンガポール・ブルネイは途中で ODA 対象外となって現在未加入)

(1)「RLF(Regional Leaders Forum)」(マレーシア)への参加 (H25.11.20-24)

AJAF-21 が発足して2年後の1990年、ASEAN 各国の若者たちが集いあうユース・フォーラム(現在:RLF)が初めてシンガポールで開催されました。

その後毎年各国持ち回りで開催され、通算19回目となる今年も11/20-24の5日間、マレーシアで開催されました。日本を含め各国から約100名の若者たちが集い、各国からの発表や意見交換が活発に行われ、お互いの交流を深めました。



(2)「ECM(Executive Council Meeting)」(インドネシア)への参加 (H26.2.21-24)

AJAF-21の各国代表者会議(ECM)が、1988年に第1回目を開催して以来、今年が通算26回目として2/21-24の4日間、インドネシア・ジャカルタで行われました。

会議は各国のOB会(Alumni)から活動報告が発表され、共同テーマについての意見交換が交わされるなど、終日熱のこもった討議が繰り広げられました。

日本(DAY)からは、青年招へい事業が始まって30周年を迎える2015年2月に、東京で開催する第27回目のECMを、2/5-9に行うこととして決定されました。



(3)「テレビ会議(TV Conference)」の実施

2009年から、各国のJICA施設を利用し、テレビ中継を通してお互いの活動報告や情報交換を行っています。今年度も4回行われました。



- 1) 第16回「テレビ会議」(H25.4.5 日本:JICA本部+各国JICA現地事務所)
- 2) 第17回「テレビ会議」(H25.6.28 同上)
- 3) 第18回「テレビ会議」(H25.9.20 同上)
- 4) 第19回「テレビ会議」(H25.12.13 同上)

(4)「ECM2015東京大会+青年招へい事業30周年記念大会」の企画提案

「AJAFA-21」が毎年開催している「ECM」(代表者会議)は、**2015年2月5日-9日**の5日間、東京で開催されることが決定しました。それに合わせて、1984年にスタートした青年招へい事業の30周年記念として、JICAとの共催(予定)で、ASEAN諸国からゲストをお招きして、記念パネルディスカッションを行うことになりました。



<ASEAN 青年と歓談する中曽根総理/1984>

【3】「広報活動」

③広報活動

- ◆ 協会活動は、ホームページを通して広く情報発信を行っています。会員向けの活動報告としては会報誌を年に2回発行いたしました。上半期・下半期の活動報告と、主要なトピックスを特集してお届けしています。

<会報誌の発行>

- 発行:(No.134)H25年5月
- 発行:(No.135)H25年11月

<案内リーフレットの制作>

- 改訂:H25年9月



IV. 協会運営

【1】評議員会・理事会・運営幹事会の開催

<平成 25 年度 役員会開催記録>

- (1) 第 1 回評議員会
日時:平成 25 年 5 月 29 日(水)
場所:芝パークホテル(以下同じ)
- (2) 第 1 回理事会
日時:平成 25 年 5 月 29 日(水)
- (3) 第 2 回理事会
日時:平成 25 年 10 月 31 日(木)
- (4) 第 3 回理事会
日時:平成 26 年 3 月 10 日(月)



<平成 25 年度 運営幹事会開催記録>

- (1) 第 1 回運営幹事会
日時:平成 25 年 4 月 9 日(火)
場所:協会事務局(以下同じ)
- (2) 第 2 回運営幹事会
日時:平成 25 年 5 月 20 日(月)
- (3) 第 3 回運営幹事会
日時:平成 25 年 6 月 24 日(月)
- (4) 第 4 回運営幹事会
日時:平成 25 年 7 月 22 日(月)
- (5) 第 5 回運営幹事会
日時:平成 25 年 9 月 4 日(水)
- (6) 第 6 回運営幹事会
日時:平成 25 年 10 月 15 日(火)
- (7) 第 7 回運営幹事会
日時:平成 25 年 11 月 12 日(火)
- (8) 第 8 回運営幹事会
日時:平成 25 年 12 月 16 日(月)
- (9) 第 9 回運営幹事会
日時:平成 26 年 1 月 21 日(火)
- (10) 第 10 回運営幹事会
日時:平成 26 年 2 月 25 日(火)
- (11) 第 11 回運営幹事会
日時:平成 26 年 3 月 25 日(火)



【2】会長サロンの開催

＜平成 25 年度 会長サロン＞

法人会員の代表者の皆様方と、三村会長、西尾副会長を囲む懇談会:「会長サロン」を、**9月30日(月)**、丸の内の銀行倶楽部において開催いたしました。

今年度は21社の代表者の方々にご参加いただき、昼食をはさみながら協会活動へのご理解を深めていただきました。



【3】会員動向(入会・退会)

◆H25. 4. 1現在

- (1)正会員…………… 48社
- (2)維持会員…………… 22社
- (3)個人会員…………… 69名

◆H26. 3. 31現在

- (1)正会員…………… 48社 (入会 2社・退会 2社)
- (2)維持会員…………… 23社 (入会 4社・退会 3社)
- (3)個人会員…………… 80名

